

日本社会福祉士会「生活支援アセスメントシート」の作成について

1 アセスメントシート作成の経過と目的

これまで、日本社会福祉士会では、全国で様々な相談援助業務に携わり活躍する社会福祉士がソーシャルワークを展開するうえで活用できる有効なツールとして、多岐にわたる分野に対応できる領域別のアセスメントシートの開発に取り組んできました。

また、国においても「生活困窮者自立支援法」が2013年12月に成立しました。その経過の中で、生活困窮者を早期に把握し、必要な支援につなげるためのアウトリーチを重視した自立相談支援機関の設置や、本人の主体性と多様性を重視したプランの作成、チームアプローチによる支援など、ソーシャルワークの必要性が高まっています。

このような状況において、今回、開発したアセスメントシート（以下「本シート」という。）は、社会福祉士をはじめ、福祉の専門職として、ソーシャルワークの実践と根拠に基づいた相談援助業務を展開する方のためのツールとして、幅広く様々な場面で活用していただくことを目的に公益社団法人日本社会福祉士会（以下「本会」という。）が作成したものです。

2 アセスメントシートの特徴とねらい

本シートは、生活支援に視点を置いて、すべての相談者本人に対応する「**インタークシート**」と「**基礎シート**」を基本に、本人の状況に応じた「**領域別シート**」などを付加していきながら、より深くニーズをアセスメントしていけるように構成し、本人の意思を尊重しながら、支援者として本人の生活全般の課題を捉えながら総合的にマネジメントを行うという視点が入っていることを特徴としています。

社会福祉士など支援者が、生活支援が必要な対象者が抱える様々な課題や実情を十分に把握し、相談援助技術を駆使して、本人の自立支援に結びつけるためには、適切にアセスメントできることが重要です。

「**インタークシート**」は、初回の面接相談で、課題を抱えた方の基本情報を整理するためのものです。

「**基礎シート**」は、支援者が「**インタークシート**」において「継続対応が必要」と判断した場合、本人のこれまでの生活状況をもとに、本人の意向と本人が捉える課題、支援者が捉える課題の根拠と支援方針についての判断の根拠を明確にできるように工夫しています。

「**領域別シート**」は、「リーガル・ソーシャルワーク」「滞日外国人支援」など多様性のある複雑な課題に対して、きめ細やかなアセスメントを行い、より具体的な対応のための根拠を示すことができるので、その後のプランの作成や本人への自立支援に有効となります。

本シートは、社会福祉士などの支援者が、本人のためにその状況をどう判断して、本人にとってどう自立支援することが望ましいのか、根拠を持って示せるようにすることをねらいとしています。

そのため、生活困窮者自立支援のための自立支援相談機関など、相談援助を行っている様々な機関や現場で活用することができます。

また、本シートの有用性を高めるために、全国で実践活動を展開している社会福祉士にモデル的に活用していただくなど、十分な期間をかけてプレテストを行いました。

しかし、時代の流れや経済や社会の状況とともに相談内容や課題も絶えず変化を遂げていくことが想定されるので、本会では、今後も各都道府県社会福祉士会と連携しながら、ソーシャルワークの実践現場の意見をシートに反映させ、更に完成度を高めていく予定です。

本シートを幅広い現場で活用して、支援者の皆さんの業務にお役立ていただくとともに、様々な地域での実践力向上のために、活用後のご意見をぜひ本会にお寄せください。

2014. 05. 17